

## 第7代、松前会長の時代

昭和48年、東海大学  
総長・松前重義氏が、  
その後を継ぎ第7代  
(法人・第2代)会長  
に就任した。日本は経  
済的豊かさを増し、衣  
食住に関する基礎的  
要求はほぼ充足の段階に  
達し、50年代に入ると、



第7代会長  
松前重義氏

人々の欲求は情緒的商品や精神的欲求の充足へと移っていった。一方、国力の増大は日本の国際的地位を押し上げ、世界経済は相互依存の体制を強めていく。松前氏は、成熟化する大衆消費社会の様相を「物質文明を野放図に謳歌する混濁に満ちた時代」と指摘し、精神文明の回復、物質と精神の融合と調和の上に立った文明の創造を主張した。その為には国際間の相互理解が何よりも必要であると主張され、「平和を愛す



桜花賞を授与する松前総長（右側）



昭和47年 新年総会

るといふ人類的な使命を自覚し、お互いに他国の文化の理解者とならねばならない。われわれは他国の文化を学ぶだけではなく、日本語と日本文化の理解者を世界に育てよう」という考えのもとに、本会に国際交流委員会を設け、日本語普及事業をおこした。そして、51年には文部省・外務省・各報道機関の後援の下、京都国立国際会議場において日本語普及に功績のあった各国の学者に“桜花賞”を授与、このニュースは海外にも報道された。その後、松前氏は国際柔道連盟第三代会長に就任して多事多端となり、老齢の故もあって59年末、会長を辞任した。



昭和56年 法人認可15周年記念式典